

FMD News

 facebook


いつもユネクスEFをご使用頂き誠に有難うございます。
FMD News Vol.2 をお届けいたします。
facebookページも引き続きよろしくお願いたします。

12月のTOPICS

1. 卵を食べてもコレステロール値に影響しない、血管内皮機能への影響は？
2. ユネクスイーエフを使用した学会発表

1. 卵を食べてもコレステロール値に影響しない、血管内皮機能への影響は？

コレステロールの過剰摂取は心血管病リスクの発症となり得るとされ、健康のためこれまで摂取が制限されてきました。しかし、近年多くの研究観察において心血管病発症に影響を与えないことなどが示され、厚生労働省でも4月改定の「食事摂取基準」でコレステロールの基準を撤廃し、また日本動脈硬化学会でも「食事で体内のコレステロール値は変わらない」との声明を発表されています。では、血管内皮機能への影響はどのようなのでしょうか？

【要約】冠動脈疾患を有する32名を対象とし、毎朝食に全卵2個を摂取する群〔卵摂取群〕、1/2カップのEgg Beaters（卵白を主成分に香料、ビタミンなどを添加した商品）を摂取する群〔卵代用品摂取群〕、ベーグルやシリアルなどを摂取する群〔高炭水化物群〕の3群に分けランダム化クロスオーバー試験を実施した。6週間食事介入後4週間の休止期間を1クールとし、全ての食事介入を行い3クール、計26週間で観察された。卵摂取群における6週間後のFMDは $7.2 \pm 2.9\%$ で、卵代用品摂取群の $7.3 \pm 2.2\%$ 、高炭水化物群の $7.5 \pm 2.9\%$ 、と3群間に差はなかった。また、6週間の卵2個摂取は、総コレステロール値、HDL-C、LDL-C値、中性脂肪値、いずれも介入前後で変化せず、卵代用品群、高炭水化物群との差も認められなかった。その他、血圧、体重、BMI値も卵2個摂取の影響はなかった。冠動脈疾患患者においても、毎日2個6週間にわたる卵摂取は、心疾患リスクとなる因子を悪化させず、健康人と同様に卵の摂取制限をあまり厳格にする必要性がないことが示唆されたが、家族性高コレステロール血症例では注意が必要である。

文献情報…Katz DL, et al. : Am Heart J. 2015 Jan ; 169(1) : 162-169

2. 第107回 日本循環器学会中国地方会（広島県広島市）でユネクスイーエフを使用した発表がありました。

今回はその中から1演題をご紹介します。

078 2つの血管内皮機能検査は相関するか？ —FMDとRHIの比較—

寺川 宏樹 先生（広島鉄道病院 循環器内科）

【要約】非侵襲的な血管内皮機能検査として導管血管レベルでのFMDと抵抗血管レベルでのRHI-PATについて比較検討を行った。対象は冠動脈造影を行った64例（男性44例、平均年齢65歳）、FMDはユネクス社製のユネクスイーエフ、RHI-PATはイタマー・メディカル・ジャパン株式会社製のエンドパット2000を用いた。

FMDの平均値は $4.4 \pm 2.6\%$ 、RHI-PATの平均値は 1.95 ± 0.65 であり、両者間での相関関係はなかった。

FMDは男性で低値を示し、糖尿病の有無、メタボリック症候群の有無によっても有意差が認められた。

また、FMDは冠動脈の病型においてCADに次いでVSA、Non-CADとそれぞれ有意差が認められたが、RHI-PATではいずれにおいても有意差を認めなかった。

FMDは動脈硬化の早期から病変の進行につれて変化が見られる指標であり、RHI-PATは早期の病変を捉えるが、ある程度病変が進行した例においては差が出にくい指標だと推測された。

FMDとRHI-PATは相関を認めず、異なる血管内皮機能を評価していることが示唆された。